

尾花沢市洪水避難地図（毒沢地区）



洪水避難地図（尾花沢市洪水ハザードマップ）

この地図は、最上川が大雨によって増水し、市内の堤防が決壊した場合の浸水予想にもとづいて、浸水する範囲とその程度ならびに各地区の避難場所を示した地図です。浸水予想では、概ね100年に1回程度起こる大雨を想定しており、地図上に示した想定破堤箇所が決壊した場合のシミュレーションを行ったものです。大雨の規模は、2日間の総雨量が180mm（昭和61年8月の大雨98mmのおよそ1.8倍）を想定しています。あなたの住んでいる地区における浸水や崖崩れなど、大雨による災害が発生する場所や状況を日ごろから把握し、雨の降りかたや浸水の状況に注意して、危険を感じたら早めに自主的な避難を心掛けましょう。また、水害の恐れがあるときは、市等から避難勧告や避難指示が出されますので、速やかに避難して下さい。いざという時に備え、見やすい場所に貼っておきましょう。

なお、地図に示した浸水範囲以外のところも、場合によっては浸水することがありますので注意して下さい。

平成15年9月 尾花沢市

避難時の心得

- ラジオ、テレビで最新気象情報、災害情報に注意しましょう。
- 危険が迫ったときは、市役所や消防からの避難呼びかけに注意しましょう。
- 避難の呼びかけがなくても、早めの避難が必要です。
- お年寄りや子供は、早めの避難が必要です。
- 近所のお年寄りや子供、病気の人の避難に協力しましょう。
- 自動車での避難は危険です。
- 避難するときの荷物は、貴重品、必要な食料、衣類、日用品など必要最小限とし、近所の人とグループで行動しましょう。
- 避難路は、高い道路を選び、道路脇の溝や水路などに注意しましょう。

洪水発生メカニズム

①大雨や雪解けによって、川の水の量が増え、水かさが増え始めます。

②堤防いっぱいまで水が増え、土でできた堤防に水の圧力がかけられ始めます。

③水が増え、水の力に堤防が弱れられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

④堤防の崩れた場所をとおって、勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。

⑤堤防から流れ出した水は、場所によっては家を破壊・流出したり、車を浮き上がらせたりしながら広がります。水が浸水して来るとすぐ水かさが高くなり、歩行が困難になります。



注意報・警報とは、どういう場合出るのか。（山形県地方気象台・村山地方の平地測点）

洪水	注意報	警報
1時間の雨量	40 ^{mm}	60 ^{mm}
3時間の雨量	60 ^{mm}	100 ^{mm}
24時間の雨量	110 ^{mm}	180 ^{mm}

大雨	注意報	警報
1時間の雨量	30 ^{mm}	60 ^{mm}
3時間の雨量	60 ^{mm}	100 ^{mm}
24時間の雨量	90 ^{mm}	180 ^{mm}

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

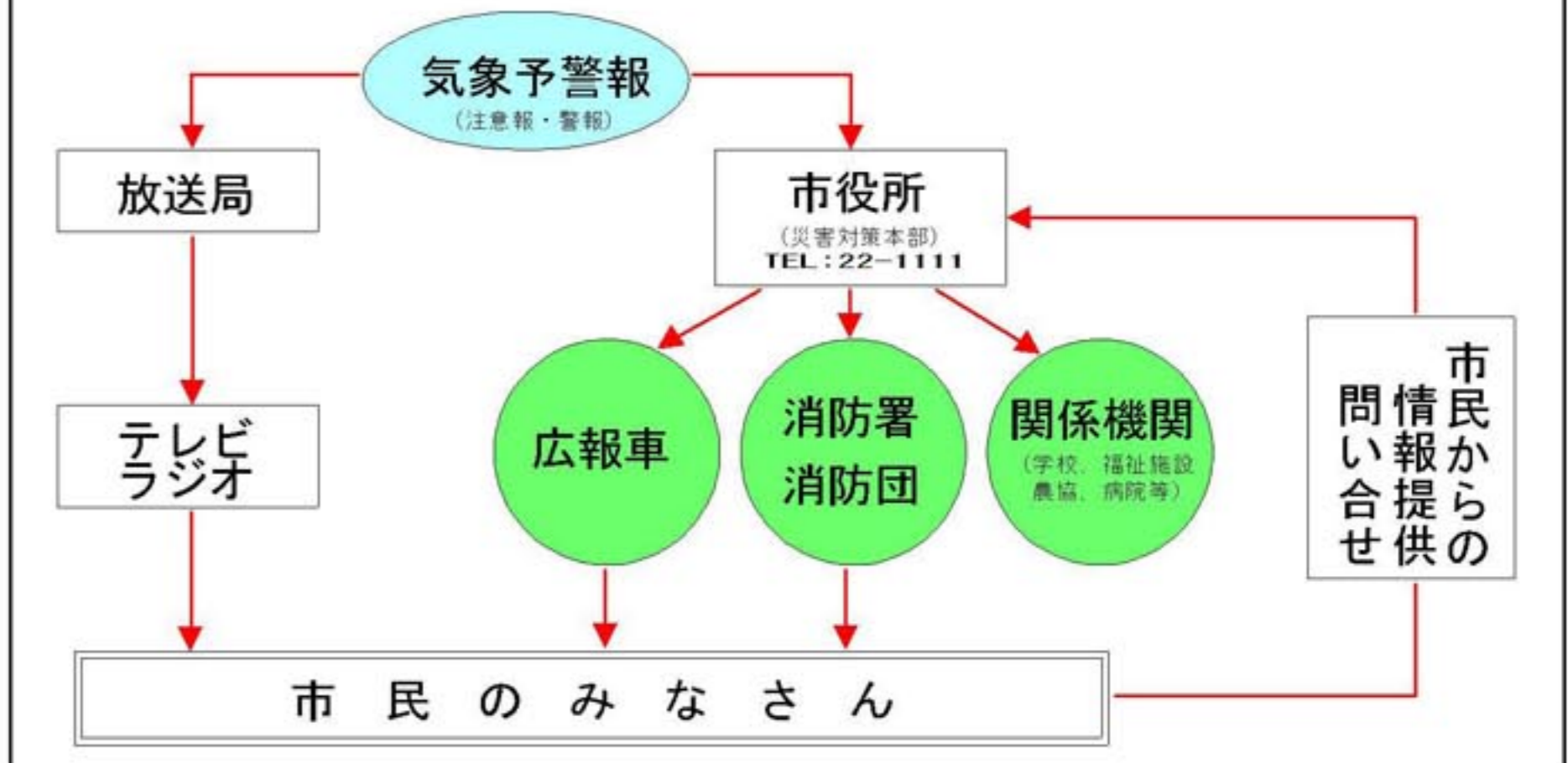
- 0.5m未満
- 0.5m～1.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 2.0m～5.0m未満
- 5.0m以上

浸水実績（平成9年6月）

- 内水氾濫
- 外水氾濫
- 氾濫解析で想定した破堤箇所
- 避難経路
- GH：標高
- DWL：破堤想定水位

情報の伝達経路

気象予警報（注意報・警報）と避難勧告・避難指示（命令）は、下記の図のような経路で市民のみなさんに伝達されます。



洪水時の避難

避難指示などの種類	市等からの呼びかけ内容	みなさんの行動
①避難準備 水門の水位計が概ね2.0mを超える時	毒沢地区のみなさん！ 大雨により最上川が増水し、危険な状態です。 いつでも避難できるように準備をして下さい。	いつでも避難できるように、準備をしましょう。 ラジオやテレビの放送、市役所からの広報に注意しましょう。 お年寄りや子供は、早めに避難させましょう。
②避難勧告 水門の水位計が概ね2.5mを超える時	毒沢地区のみなさん！ 最上川が氾濫する恐れがあります。 速やかに避難をして下さい。	お互いに助け合って、指定された避難場所に、速やかに避難を始めましょう。
③避難指示（避難命令）	毒沢地区のみなさん！ 最上川が氾濫し家屋に浸水する危険があります。 いまずきに避難して下さい。	指定された避難場所に直ちに避難しましょう。

洪水の記録

天保4年6月（1833） 天保の飢饉	大雨有其ノ後相続キ雨其ノ天気ノミ二十四日ヨリ二十六日三日ノ間屋夜大雨川々洪水最上川武丈八尺増シ田畑一円水押ニ相成リ破損甚シク、云々
明治8年6月（1833）	大雨ニテ川々大洪水橋々流失シ荻袋寺内其他ノ村々被害甚多ク最上川増水毒沢村阿部善兵衛ノ床上三尺余浸水セリ
明治22年6月（1889）	大雨降り続キ川々洪水最上川未曾有ノ増水ニテ毒沢村阿部善兵衛ノ床上三尺以上ノ浸水 大石田ノ如キハ街道ニ港ヘタル水数尺避難者二階ヨリ船ニテ救ヲリテ流失家屋七八戸アリキメニ荻袋寺内野黒沢其他川掛ケ大損也夥シク随テ田ノ收穫減少セリ
昭和31年7月18日（1956）	最上川が増水により、床上浸水4戸、床下浸水27戸
昭和42年8月28日（1967）	羽越豪雨と呼ばれるもので、山形県南部を襲った集中豪雨、毒沢孤立、芦沢オミ地区堤防破堤
昭和44年8月8日（1969）	県内全域に降った雨は、野尻川、赤井川を増水させ、毒沢孤立、野尻川堤防決壊、床上浸水48戸、床下浸水357戸
昭和56年6月22日（1981）	床上浸水1棟、田畑、河川、道路被害
昭和61年8月5日（1986）	台風10号から変化した低気圧による大雨、河川の決壊箇所、田畑被害
平成2年6月26日（1990）	河川の決壊4箇所、道路の損壊4箇所、田畑被害
平成9年6月29日（1997）	梅雨前線が停滞しているところに、台風8号が接近したため、県内は羽越豪雨に次ぐ大洪水となった。尾花沢市では、住家一部破損1棟、河川の決壊32箇所、道路の損壊35箇所、田畑被害、公共土木施設被害、農林水産業施設被害
平成14年7月12日（2002）	台風6号による洪水。

出典：明治の代までは「福原村郷土史」により、昭和の代以降は「尾花沢市地域防災計画」による。